

2004年6月期中間決算説明会

2004年2月13日

株式会社インターネット総合研究所
代表取締役所長 藤原 洋

(注) 当資料は、当社の2004年6月期 中間決算説明を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2004年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目 次

- 1 . 2004年6月期中間決算
- 2 . 2004年6月期各社の事業展開
- 3 . IRIグループの中期事業戦略

1 . 2004年6月期中間決算

1. 2004年6月期中間決算サマリー

(単位: 百万円)

	2003/6月期				2004/6月期				
	1Q	2Q	中間期	通期	1Q	2Q	中間期	前年同期比	通期予想
売上高	2,117	2,719	4,836	11,306	3,871	5,876	9,632	4,796	17,500
[IPネットワーク事業]	629	849	1,478	5,008	2,253	4,038	6,291	4,813	----
[内訳] IRI単体	---	---	---	2,437	1,360	2,992	4,352	---	6,250
BBTower	---	---	---	2,031	616	691	1,307	---	3,000
BBX	---	---	---	---	149	203	352	---	900
IC&O	---	---	---	528	115	118	233	---	500
IRI-CT	---	---	---	329	103	111	214	---	400
シアス・アール	---	---	---	---	---	13	13	---	50
[IPプラットフォーム事業]	1,485	1,866	3,351	6,287	1,615	1,745	3,360	9	----
[内訳] IRI単体	---	---	---	---	37	57	94	---	250
TAU	---	---	---	6,287	1,577	1,689	3,266	---	6,500
[その他事業]	2	3	5	11	2	2	4	1	----
[内訳] IRI-USA, Incなど	---	---	---	11	2	2	4	---	10
売上総利益	302	433	735	1,704	346	544	890	155	----
販管費	463	498	961	2,053	567	581	1,148	187	----
内、連結調整勘定償却	3	3	6	7	0	0	0	6	----
営業利益	161	64	226	349	221	36	257	31	415
持分法による投資損益	165	193	359	721	4	7	11	370	----
経常利益	333	299	633	1,135	232	166	398	235	235
当期純利益	324	337	662	1,487	10	186	176	486	335

売上高 96億32百万円

IPネットワーク事業は、エンタープライズ向けビジネスの立上がり、機器販売等の売上が急拡大。当期よりBBXを連結子会社化。

IPプラットフォーム事業は、着実な成長。

売上総利益 8億90百万円 / 営業損失 2億57百万円

機器販売は、コンサルティングに比べて利益率が低い。

経常損失 3億98百万円 / 当期純損失 1億76百万円

2QにIRI単体の増資に伴う新株発行費用 1.2億円が発生。

2. 2004年6月期中間決算: 財政の状況

(単位: 百万円)	2002・6月期 中間期	2002・6月期 第3四半期	2002・6月期 決算期	2003・6月期 第1四半期	2003・6月期 中間期	2003・6月期 第3四半期	2003・6月期 決算期	2004・6月期 第1四半期	2004・6月期 中間期	前期末比 増減
流動資産	7,229	7,088	4,987	4,814	4,880	5,243	6,278	6,933	12,229	94.8%
うち 現金及び預金	3,676	4,117	1,447	2,014	1,614	1,330	2,256	2,256	5,004	121.8%
うち 受取手形・売掛金	1,776	2,101	1,645	1,737	2,098	2,865	2,843	3,513	6,227	119.0%
固定資産	5,890	6,266	5,110	4,924	4,691	4,577	4,075	4,287	4,342	6.6%
うち 有形固定資産	249	2,205	2,124	2,111	2,103	2,109	2,081	2,250	2,243	7.8%
うち 無形固定資産	168	59	37	34	32	54	48	50	194	304.2%
うち 投資その他資産	5,472	4,001	2,948	2,779	2,556	2,413	1,945	1,986	1,904	-2.1%
資産合計	13,120	13,355	10,097	9,740	9,571	9,820	10,354	11,220	16,572	60.1%
流動負債	2,324	3,040	2,715	2,123	2,481	3,503	4,247	4,773	7,785	83.3%
うち 支払手形及び買掛金	1,342	1,708	1,526	1,610	1,881	2,396	2,511	2,801	5,676	126.0%
うち 短期借入金	541	545	406	450	400	400	740	990	1,040	40.5%
固定負債	232	1,145	961	961	814	740	724	749	633	-12.6%
うち 退職給付引当金	71	73	79	82	86	88	90	94	97	7.8%
うち 長期未払金	-	1,021	880	877	727	650	573	626	534	-6.8%
負債合計	2,558	4,185	3,677	3,084	3,295	4,243	4,972	5,523	8,419	69.3%
少数株主持分	1,691	1,896	416	483	466	447	793	1,104	924	16.5%
資本金	2,081	2,083	2,188	2,191	2,202	2,202	2,226	2,226	3,640	63.5%
資本合計	8,870	7,274	6,003	5,687	5,350	5,129	4,587	4,592	7,229	57.6%
負債・少数株主持分および資本合計	13,120	13,355	10,097	9,740	9,111	9,820	10,354	11,220	16,572	60.1%

< 期首残高比較 >

流動資産の増加

- ・現金及び預金の増加は、増資
- ・売掛金は、売上増加

流動負債の増加

- ・支払手形・買掛金は、売上増加に伴う仕入増加

流動負債の増加 (続き)

- ・短期借入金は、タウ技研及びシアンス・アールにおける増加
- ・少数株主持分の増加

- ・BBTowerの第三者割当増資に伴う少数株主比率の上昇

2 . 2004年6月期各社の事業展開

1. 連結業績の会社別内訳

(単位:百万円)

	2004.6期 中間期実績				2004.6期予想			
	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
IRI単体	4,446	159	289	334	6,500	120	65	65
TAU	3,266	169	168	90	6,500	450	450	250
BBTower	1,307	68	46	87	3,000	250	220	220
BBX	352	253	248	256	900	350	350	350
IC&O	233	48	50	28	500	50	50	50
IRI-CT	214	4	3	3	400	15	15	5
その他	17	22	23	23	10	0	0	0
合計	9,838	242	392	461	17,810	435	220	10
(連結修正)	9,632	257	398	176	17,500	415	235	335

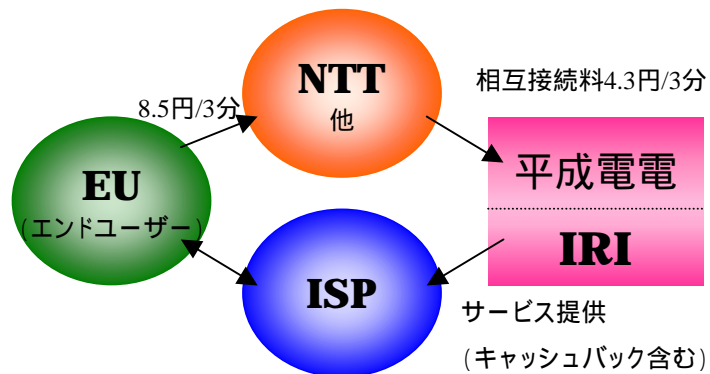
2004年6月期1Q実績 売上: 1,397百万円 営業利益: 125百万円

2004年6月期2Q実績 売上: 3,049百万円 営業利益: 34百万円

平成電電よりISP向けダイヤルアップ接続事業を買収
 会員管理型ISP/コンテンツプロバイダー向けトラフィック交換サービスを開始
 既存ISPに対し、ネットワークインフラのみならず、サーバ統合、スパム
 ブロックツール、コールセンター統合など、当社の強みを生かしたソリュー
 ションビジネスを展開

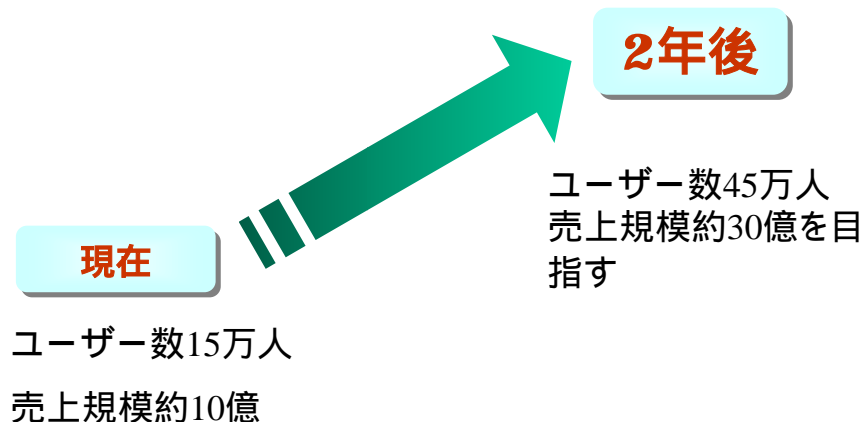
1. VAS事業の仕組み

ISPにおけるダイヤルアップユーザーの
 ネットワークインフラコストを無料にする。



2. マーケットボリュームについて

現在ダイヤルアップユーザー総数は2000万人。



3. 【事業別展開】IPネットワーク事業：BBTower (株)ブロードバンドタワー

2004年6月期1Q実績 売上： 616百万円 営業利益： 4百万円

2004年6月期2Q実績 売上： 691百万円 営業利益： 64百万円

世界最大規模のトラフィック発信需要に伴いGbps対応のサービスを開始

データセンター稼働率

2004/1末、75%を超える。2004/6期4Q稼働予定にて増床準備中

付加価値型iDC事業の開始

子会社シアンス・アール設立(2003年10月)

iDC事業を相互補完する大企業向けIT戦略コンサルティング事業を開始。

ネットシネマ事業

2003/10～「ラヴスト！」4本立て順次配信(一部配信終了)

2004/1～最新作「NO NAME」配信開始

2004/6期、10本以上を企画・制作・配信予定



BBTower業績向上に伴い、IRIの持株比率を51%から62%へ増加(2003年10月)

アジア・ネットコム・コーポレーション(シンガポール)ピーティーイー・リミテッドが所有する全株式を譲受。

住友商事とのアライアンス強化(2003年10月)(IRIの持株を一部譲渡し資本参加)。

2004年6月期1Q実績	売上: 149百万円	営業利益: 153百万円
2004年6月期2Q実績	売上: 203百万円	営業利益: 100百万円

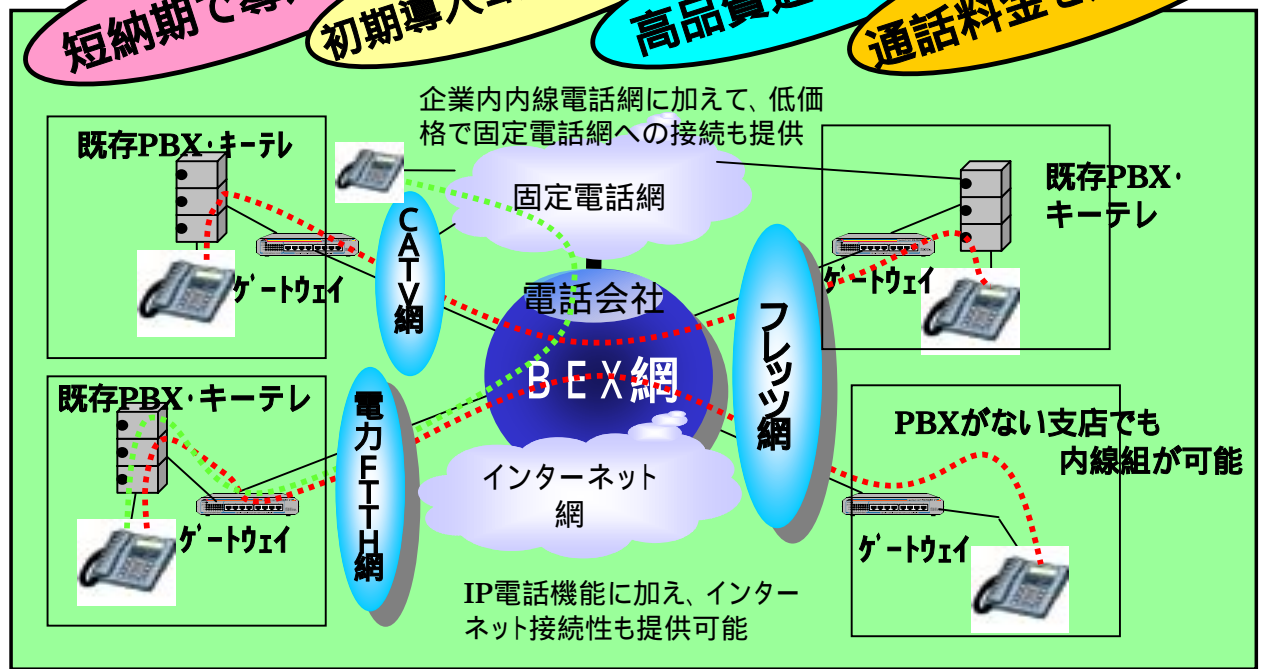
当期より連結子会社化。ブロードバンド・ネットワーク事業に経営資源を集中。

ブロードバンド通信サービス「BEX」の顧客数が着実に増加し、売上拡大。
2004年1月現在、50社強が接続。

短納期で導入可能
初期導入コストがわずか
高品質通話を実現
通話料金を大幅削減

企業向けIP電話
「BEX Phone for Enterprise」
を提供開始。
(2004年1月～)

2003年度中の
単月黒字化・
キャッシュフローの
黒字化が目標。



2004年第1Q実績 売上:1,577百万円	営業利益: 99百万円
2004年第2Q実績 売上:1,689百万円	営業利益: 70百万円



新体制により「第2の創業」に向けて始動

1. IPプラットフォーム事業(ユビキタス事業)

「ユビキタス製品開発型メーカーとして始動」

コア技術:映像・画像の信号処理技術とネットワーク技術の融合
IPv6、無線、RFID、センサー技術

2. タウ技研式生産受託システム - - - テクニカルEMS体制の構築

「設計から生産までの一貫した開発・製造アウトソーシング事業」

センサーを用いたセキュリティ関連の開発・製造
液晶テレビ用PCボード、液晶プロジェクター用PCボード
エンベデッド(組込)・システム開発

IRI / ユビキタス研究所との連携ビジネスの始動

3. 通信・放送機構(TAO)からの受託研究「歩行者ネット天国」

IPv6、RFIDによるユビキタスネットワークの実用化へ向けた
実証実験を2月9日より大阪なんばパークスにて開始



エンタープライズコラボレーションネットワークフォーラム(enNetforum)の本格始動

目的：ユーザ指向の次世代ITネットワーク社会の実現を目指す。

会長：相磯 秀夫(東京工科大学 学長)

第1回フォーラム会合

日時：2003年11月25日(火) 参加者：200名以上(満席)

- ・ T1: SSL VPNリモートアクセス分科会での検討内容を発表。
同分科会には16社から28名がメンバーとして参加。
- ・ 同分科会では、各ITベンダーが協調(コラボレーション)して、初期市場段階にあるSSL VPNの普及、発展に向けた活動を実施中。
- ・ 競合するSSL VPN機器ベンダーが一同に会した国内初のセミナーとなり、参加者から好評を博した。

(参加ベンダ: Cisco、Nortel、NEC、NetScreen、Aventail/高千穂交易)



* SSL VPN(Secure Socket Layer Virtual Private Network)

ユビキタス時代を先取りする、セキュアでシンプルなりモートアクセス手段として注目されているテクノロジー

フォーラム会合レポートWEB掲載 http://www.ennetforum.org/meeting_t1_200311.html

B / Sの改善により株主還元を積極的に取り組む

- ・当期未処理損失(4,965百万円)への充当。
- ・その他資本剰余金(3,980百万円)を確保し、配当可能利益の充実を図ると共に、自己株式の取得など機動的な資本政策を可能とする。
- ・2003年12月末をもって、1:2の株式分割を実施。(新株券交付日:2004年2月20日予定)

減少前資本準備金	9,501,885,642円
資本準備金減少額	8,945,385,642円
未処理損失の填補	4,965,281,998円
その他資本剰余金	3,980,103,644円
減少後資本準備金	556,500,000円

関連子会社パソナテックの上場(2004年3月9日予定)

- ・株式会社パソナテック(当社持分法適用関連子会社)
JASDAQ市場に3月9日上場予定
IPネットワークの様々な産業分野への拡大に伴い、シナジー効果は増加傾向にあり。今後共同事業を推進。

3 . IRIグループの中期事業戦略

1. IRIグループの成長フェーズ

「インターネット・テクノロジー系新興企業」として創業

- ・高参入障壁/独自技術の開発・市場での地位確立に各フェーズでの競争
- ・コア技術開発・市場での地位確立後黒字転換、転換後安定的に黒字幅蓄積

インターネット
サービス系
企業
【早期事業立上型】

第1フェーズ：「資金調達競争フェーズ」 東証マザーズ第1号として上場
【約109億円の資金調達】

- ・コア技術 = IPネットワークの設計・構築・運用技術を確立
- ・IRI本体JPIX(日本初の商用IX)設立・運用 / NTTドコモ等キャリア系ISPへの技術支援

第2フェーズ：「顧客獲得競争フェーズ」 上場後の事業規模3年で約10倍
【デロイト・トゥシュ・トーマツ・テクノロジーFast50で4位にランクイン】

- ・コア技術 = IPプラットフォームの開発・ファブレス製造技術を確立(タウ技研買収)
- ・コア技術 を基本にBBTowerを事業化、BBX事業化

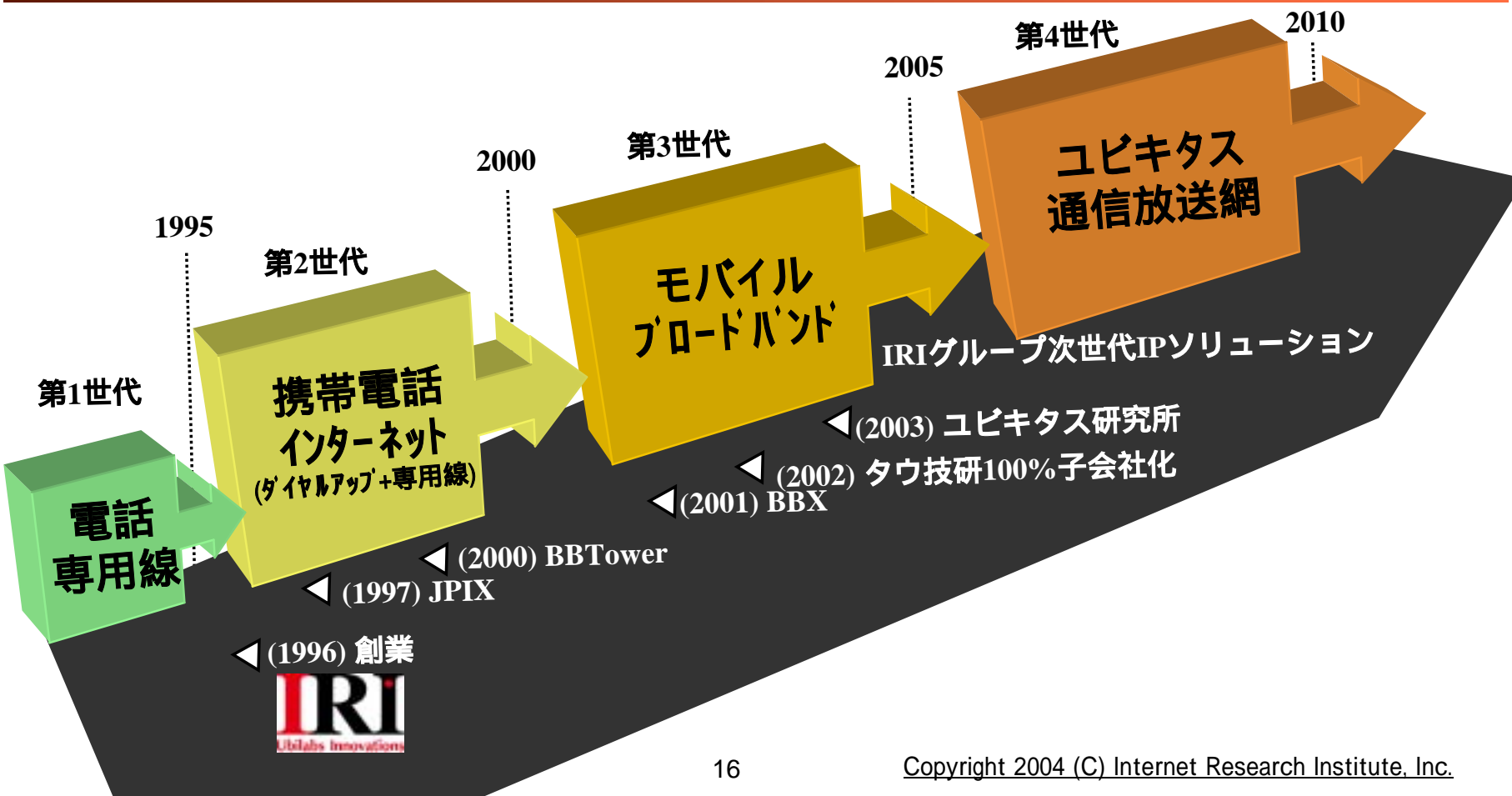
第3フェーズ：「株式市場競争フェーズ」 株価が重要な意味・黒字転換
【リーマンブラザーズ・アジアリミテッドから40億円の成長資金調達】

- ・平成電電から会員管理型ISPインフラ事業を買収 IRI本体のコンサルからリピートモデル化
- ・IRIユビキタス研究所とタウ技研の連携事業を始動 タウ技研の価値増大と自立
- ・BBTowerの増資・出資比率向上と設備増強 BBTowerの価値増大と自立

2. IRIグループの方向性

IP技術によって進化する新ネットワーク事業成長分野を創出

第4世代 『ユビキタス放送通信網』時代に向け、
IRIグループ全体の次世代IPソリューションを構築



3. IRI型企業統治モデル(ニュートラル・ネット・ソーシング)



グループ全体として、IPネットワーク運用技術を元に
常に中立的な立場から、ネットワークの世代交代を推進し、



グループ全体の次世代IPソリューションを構築

“ニュートラル・ネット・ソーシング” による

次世代IPソリューション を構築します。

IRI Group is the only *NNS* Companies in the world.

(*NNS*: Neutral Net Sourcing)

4. ネットワーク全体におけるIRIグループの位置づけ

WEBサーバー
運用支援

トラフィック交換
支援サービス



コンテンツ
事業者

コンテンツ
事業者

コンテンツ
事業者

第2種交換



第1種交換



レイヤ2交換



キャリアA

キャリアB

キャリアC

ISP-A

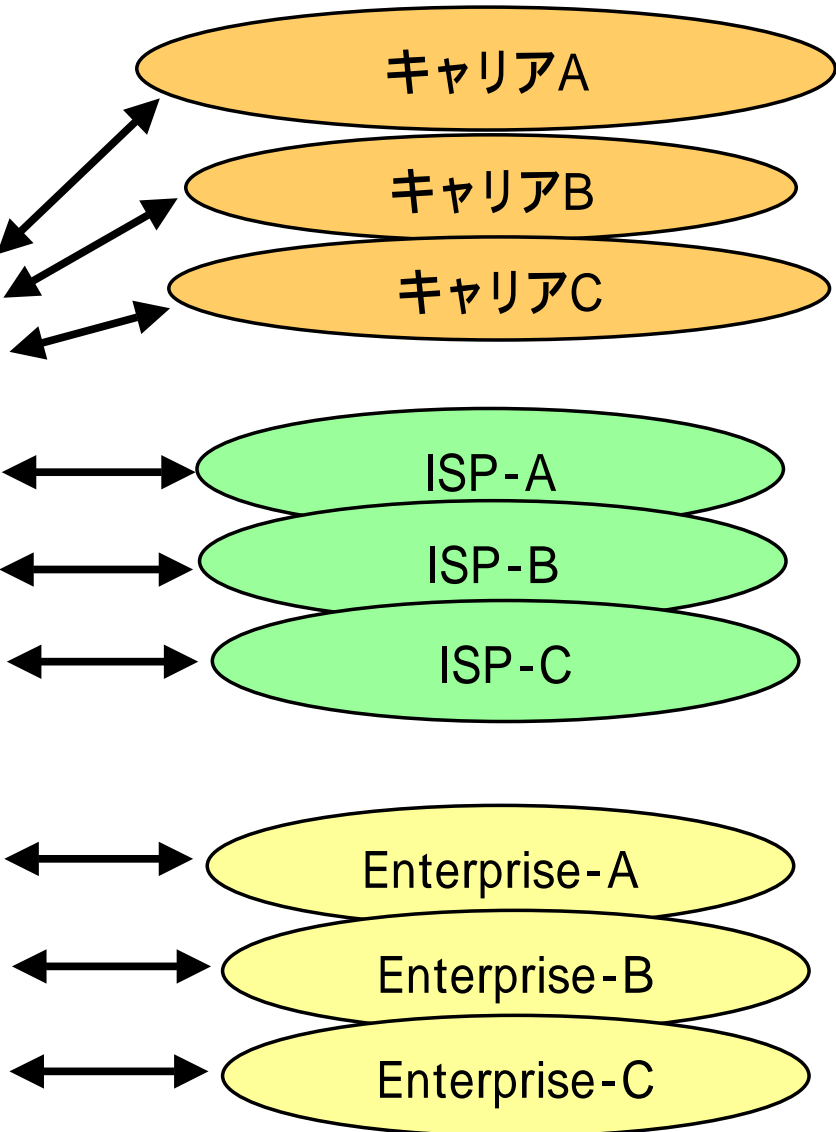
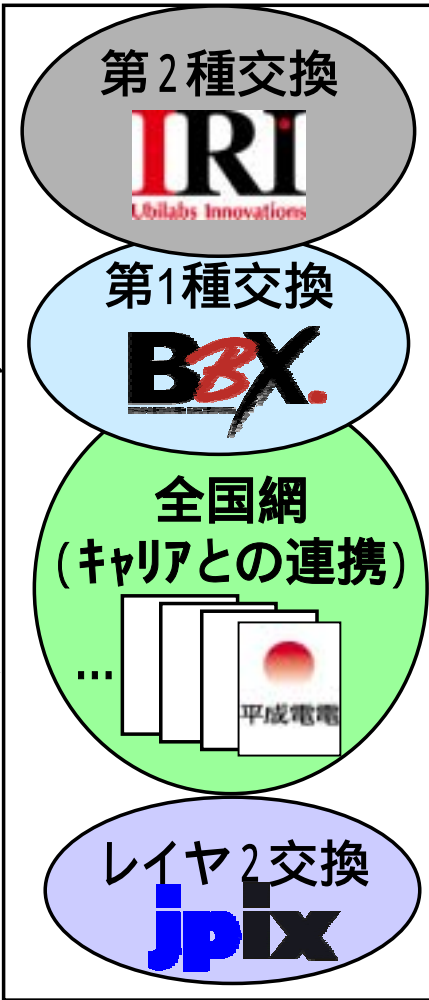
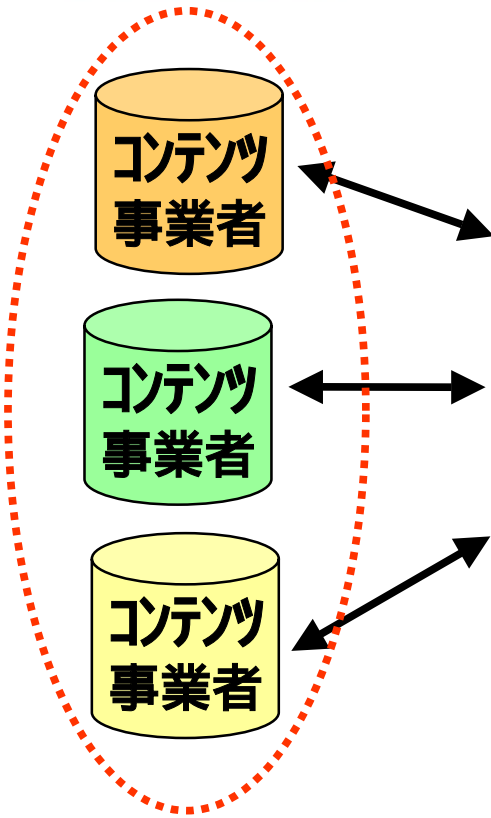
ISP-B

ISP-C

5. 全国網による拡張トラフィック交換サービス(概念図)

WEBサーバー
運用支援

トラフィック交換
支援サービス



6. ネットワーク市場におけるIRIグループの進む方向性

IRIグループの提供するIPソリューション

脱支援ビジネス!

Webサーバ運用

トラフィック交換

← インフラ構築・運用支援 →

ネットワーク機器開発



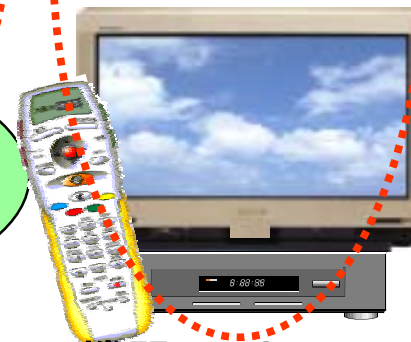
コンテンツ提供事業者
(エンタープライズ利用者)

固定通信網 (ブロードバンド)

移动通信網 (モバイル)

放送網 (デジタル)

インフラ提供事業者



機器メーカー

IRIグループの対象顧客

ブロードバンド利用者は、1000万世帯を超えたことから全世界帯へ拡大！

ブロードバンド端末は、通信機器から家電機器へ！

ブロードバンド利用時間の伸長で、低付加価値テレビ放送視聴時間がゼロへ！

HDD内蔵テレビ放送受信機の進化によって、番組編成権が完全に個人へ移行！

ブロードバンドの普及と地上波デジタル放送との融合により、モバイルと無線LANの融合が起こり、ワイヤレスブロードバンドが発展

IPv6ベースの家庭内・ビル内LANが普及し相互接続するための広域通信放送網が登場！

第4世代

高品質音響

IP-Telephony

第3世代

SIP

(session Initiation Protocol)

RFC2543主体に

第2世代

ソフトスイッチ

様々なシグナリングプロトコル登場

第1世代

VoIP-GW

ITU-T H.323

9. IPの登場で加速するネットワークの世代交代と覇者

「情報通信は百年続いた電話の時代の終焉
とユビキタス通信放送時代の幕開け」

IT革命第二幕

第4世代

ユビキタス通信放送時代の
覇者は？

(~2010)

「モバイル+ブロードバンド+
IPパケットによるネット革命」

ユビキタス
通信放送網

第3世代

(~2005)

モバイル
ブロードバンド

NTTドコモ(iMODE) + au(2.5/3G)

第2世代

(~2000)

携帯電話

Yahoo!BB + NTT東西(フレッツ)

CATV業界全体

第1世代

(~1995)

インターネット
(ダイヤルアップ+専用線)

NTTドコモ + NTTコム

電話

専用線

NTT + NCC

10. 連結業績推移

17,500百万円
(予想)

(単位: 百万円)

